和名：スイカ果実汚斑細菌病菌
学名：*Acidovorax avenae* subsp. *citrulli*
英名：Bacterial fruit blotch

分布
インド、インドネシア、タイ、台湾、中華人民共和国、イスラエル、トルコ、イタリア、ギリシャ、セルビア、ハンガリー、ナイジェリア、南アフリカ共和国、米国、コスタリカ、ブラジル、オーストラリア、北マリアナ諸島、グアム
※日本では輸入種子等が原因と考えられる発生があるが、その都度防除を実施し、その後の発生は認められていない。

宿主植物
キュウリ、スイカ、セイヨウカボチャ、トウガン、ニホンカボチャ、ペポカボチャ、メロン、ユウガオ

病原体
グラム陰性、好気性の桿菌で 1 本の極鞭毛を持ち、41℃でも生育する。主な伝搬経路は汚染種子であり第一次感染源となる。植物体の生育ステージを通じて病気を引き起こす。苗床では接ぎ木作業により二次感染が生じ、接ぎ木後の高温多湿条件下で発病が助長される。また、頭上灌水により隣接する苗に感染する。ほ場では保菌苗を定植することにより発病する。灌水や風雨に伴い本細菌が周囲に飛散することにより感染が拡大する。

病徴及び被害
苗床での初期の病徴として子葉の裏に水浸状斑が現れ、やがて暗褐色の斑点となる（図①）。病斑は胚軸まで達すると茎があめ色になり溶けるように腐敗し枯死する。ほ場などでは本葉に黄色帯（ハロー）を伴った不整形の水浸状で褐色の斑点を生じる（図②）。果実では表面に平滑又はやや盛り上がった暗緑色の水浸状の病斑が現れ（図③）、やがて亀裂を生じる。円形、褐色の盛り上がった小斑点を生じることもある（図④）。果実内部では皮層部が水浸状になって褐変し果肉内部の軟化腐敗を引き起こす。果実の病斑は日光の当たる面に形成されることが多い。

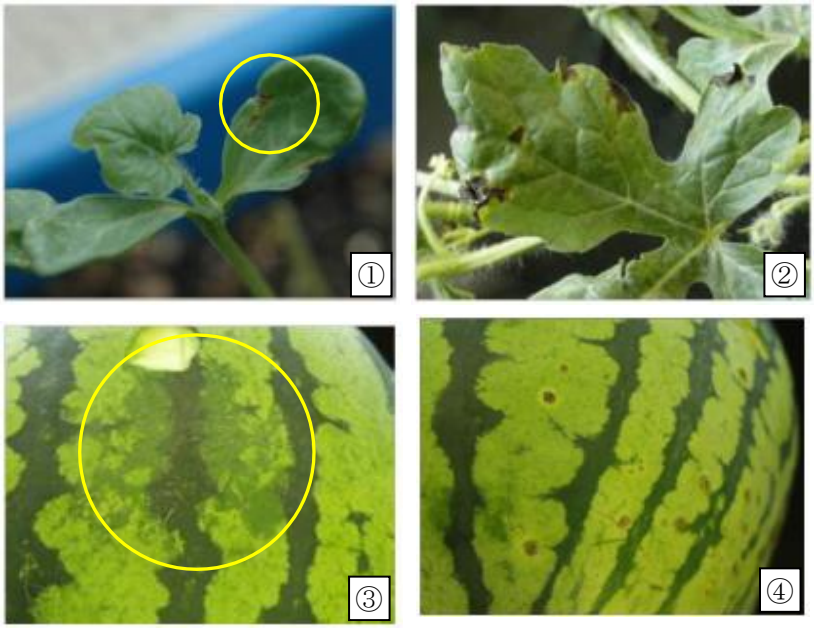

図　スイカの病徴
①　：子葉の褐色病斑
②：ハローを伴う本葉の褐色病斑
③：果実の水浸状の病斑
④：果実の褐色病斑